

該当する SDGs 目標



自社技術・製品で循環型社会の実現に貢献する

株式会社オオハシ

(1) 企業概要

本社は横浜市鶴見区佃野町 10-1、栃木県鹿沼市に 2 工場（鹿沼工場、西沢工場）を有し、プラスチックや非鉄金属の回収及び再資源化に取り組んでいます。経営理念は「限りある資源を再活用することを通して、顧客の価値創造と社会に貢献すること」。これまでリサイクルが難しかった架橋ポリエチレン廃材に対して、架橋構造を切ることで熱可塑性を持つポリエチレン製品に再生させる XPR システムを開発し、自社ブランドの樹脂製敷板「リピーボード」の製造・販売に結びました。

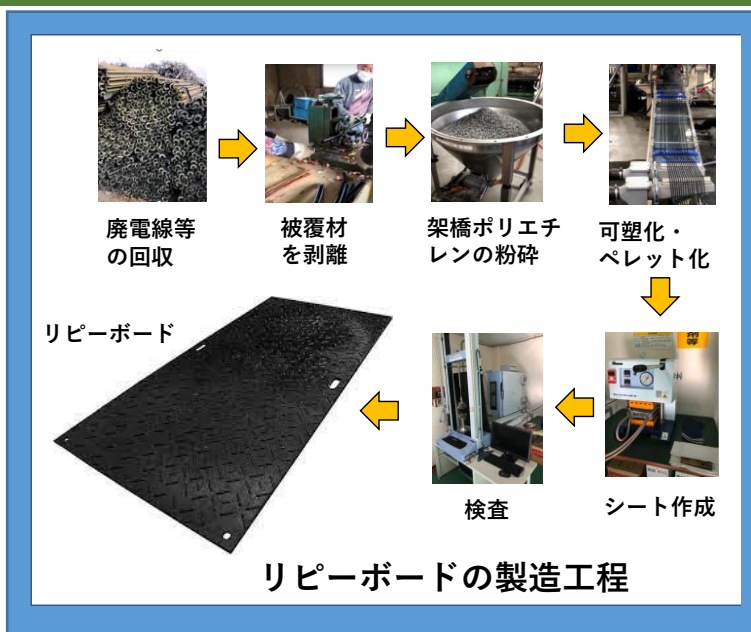


(2) 具体的な SDGs の取り組み内容

・「プラスチック廃棄物をなくす」：今まで産業廃棄物として処理され、リサイクルできなかった架橋ポリエチレンの再資源化に取り組み、100%再生樹脂製敷板「リピーボード」を開発しました。古くなったリピーボードの再利用にも取り組み、プラスチックの資源循環システムを実現しています。

・「リピーボードの活用で貧困をなくす」：軟弱地盤を改善して農業の作業効率を改善し、収穫量の向上に貢献。海外難民キャンプでのテントの床に利用し、難民生活環境の改善を目指しています。

・「多様なパートナーシップで技術革新を促進する」：イノベーション促進のため、産官学の連携を推進、日本国内のみならず、世界中の企業と最適なパートナーシップを模索しています。



(3) SDGs の取り組みを始めたきっかけ

52 年前に電線解体処理業から事業をスタートし、プラスチックの再生加工や非鉄金属の再資源化に事業領域を広げてきました。環境を守り資源を守る SDGs の考え方は創業以来、事業の中に根付いていました。そのような中で SDGs が社会で注目されるようになり、同社の技術や製品に対する注目度や関心が高まりました。SDGs の取り組みを新しく始めたというより、世の中が同社の取り組みを SDGs の視点から評価するようになったと言えます。また開発・製品化を進めるうえでは、大学や協力企業などとの協力が不可欠であったため、多くのパートナーとの連携を広げてきました。



(4) SDGs 活動の成果

SDGs への関心の高まりとともに、資源を再利用する同社の技術・製品が評価されて引き合いが増加、自社ブランド製品「リピーボード」の販売拡大に繋がりました。特にリピーボードの主要顧客である建設・土木業界では SDGs 適応製品であることが受注の必須条件となっており、軽量性や耐久性など性能優位に加え、同社が提供する SDGs の価値が事業の発展に結びついています。同社の活動については積極的に対外的発信を行い、様々な賞の受賞に繋がりました。また循環型経済への移行で先行する欧州をはじめ、海外からの引き合いも増えており、海外事業拡大の可能性も期待できます。さらに大学や企業などのパートナーシップを積極的に進める中で、次世代の XPR システムの開発も進んでいます。今後は架橋ポリエチレンの再資源化技術とノウハウを、システムとして販売することも検討しています。

最近の主な受賞例

かながわビジネスオーデション2020
神奈川県信用保証協会賞（2020年2月）

横浜ビジネスグランプリ2020
シニア賞 きらぼし賞 かわしん賞（2020年2月）

2020年超モノづくり部品大賞
環境・資源・エネルギー部門賞（2020年12月）

第4回めぶきビジネスアワード（2021年2月）

第34回中小企業優秀新技術・新製品賞（2022年9月）

(5) ステークホルダーとの連携

(a) バリューチェーンの形成：

リピーボードへの再生により供給者と顧客を繋ぐ資源循環バリューチェーンを実現しました。電力会社の廃電力機器から取り出されたケーブルは同社によってリピーボードに再生され、これが新たな電力施設を建設する際の敷板として利用されます。また住宅の廃棄設備となった給湯管もリピーボードとして再生され、新たな住宅建設の現場での敷板として利用されています。このようにして資源の循環サイクルが生まれ、循環型社会の実現に貢献しています。

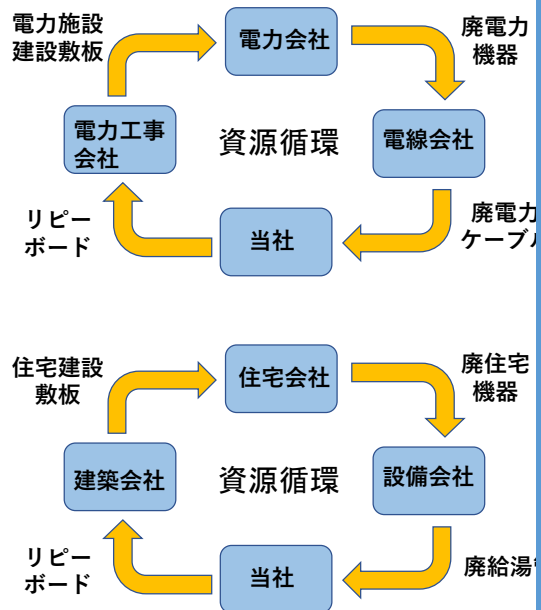
(b) 地域への貢献

栃木県にある工場の従業員のほとんどは地域出身者です。会社として地域町内活動にも積極的に参加して、地域との連携を重視しています。地域イベントがある際には景品としてリピーボードを無償提供しており、地元農家の農耕地盤の改善に役立つと好評です。

(c) 従業員の参画

営業担当者には SDGs 教育を行い、顧客の環境配慮型調達方針に対応できるよう配慮しています。自社製品が展示会などで高い評価を受け、各賞を受賞することを通して、従業員の間でも SDGs 先進企業の一員としての意識が高揚しています。

リピーボードが実現する循環サイクル



(6) SDGs に取り組んでわかったこと・今後の課題

資源と環境を守ることにに対する社会からの期待を集めることは、SDGs の視点から自社の事業を見つめ直し、「限りある資源の再利用を通して顧客の価値創造と社会貢献を行う」という企業理念を再確認する良い機会になっています。これまでの取り組みを通して様々なパートナーと連携することの重要性を感じており、かながわ SDGs パートナーへの参加で更にその可能性が広がることを期待しています。SDGs 先進企業として、今後は多様な人材（女性、外国人、障がい者など）の活用・育成、CO2 排出量の削減（生産効率改善や再生可能エネルギー利用など）、海外へのパートナーシップ拡大と次世代イノベーションの創出など、様々な SDGs の目標に取り組んでいきたいと考えています。



株式会社 オオハシ
代表取締役 塩野武男氏